

みらい
未来をつかむサバイバル
もと がいこく こ ふんとう き
元「外国につながる子ども」奮闘記

にいがた
りてらこや新潟
だいひょう ささき かおり へん
代表 佐々木香織 編

にいがたけん ふくし ざいだんじよせい
新潟県ろうきん福祉財団助成

はじめに

本書は新潟県内で 中学高校時代を過ごした経験のある外国につながる若者と筆者のインタビューをまとめたものです。本書に登場する若者は、国籍や日本にいる期間、年齢などは様々ですが、いわば、元「外国につながる子ども」です。ここでは主に 8人の皆さんが、どのように日本語を覚えたか、どのように 中学高校時代を過ごしたか、今の生活はどうか、などについて語ってくれました。そして、今、日本の 中学校や高校にいて、様々な悩みを抱えている子どもたちや、親の都合で日本に来なければならなくなり、途方に暮れている子どもたちにエールを送ります。また、外国からお子さん呼び寄せたり、一緒に連れて来る親御さんに向けた訴えもあります。それは経験者だからこそ言える重みのある言葉です。

国際的な移動が今後もますます盛んになると思いますが、子どもはいつの時代でも、どこにいても、社会全体で 育てていかなければならないと思います。家庭の事情で 国境を何度も越えなければならぬ子どもは、母語だけでなく、生活する土地の言葉をはじめとして、その社会で生きていくための術を覚えていく必要があります。それを個人や家庭の努力のみに頼ることはできません。

新潟県は外国籍住民が 1%にも満たない県(2018年6月在留外国人統計の新潟県の外国人数の 2018年1月 住民基本台帳 新潟県人口に対する割合)であることもあり、日本語がわからない児童生徒への日本語教育制度や支援は十分ではありません。筆者が代表を務める「りてらこや新潟」(<https://www.literakoya.org/>)というボランティア団体が活動を始めた理由の一つは、平和な多文化社会を築くためには、このような子どもたちが、大人として社会で生活していくために必要な、リテ

ラシーやソーシャルスキルを身に付けられるよう支援することが不可欠だと考えたからです。しかし活動を始めてから10年たちましたが、残念ながら状況はあまり変わっていないようです。

本書が、みなさんのすぐ近くにも頑張っている元「外国につながる子ども」や、今まさに未来をつかもうと奮闘している「外国につながる子ども」がいる、ということを知っていただくきっかけとなれば幸いです。そして、本書が、これから言葉のわからない日本という国で生きて行くという子どもや、その保護者の励ましになることを祈っています。

しゃじ
謝辞

インタビューに応じてくださった皆様に心から感謝申し上げます。
あまり話したくなかったことを聞かれたり、思い出したくない辛いことを思い出させたりしてしまったかもしれません。すみませんでした。それでも、皆様の体験談は後輩たちの大きな助けになることと確信しています。本当にありがとうございました。また、校正を手伝ってくださったり、内容について様々な助言をしてくださったりした、りてらこや新潟のボランティアの皆さん、特に中国語訳を担当してくださった王鼎氏(中国・湖北省武汉市出身、新潟大学文学博士・同大学大学院現代社会文化研究科博士研究員)、英語訳を手伝ってくださったグラハム・デイビス氏に心から御礼申し上げます。また、全体の英語のチェックをしてくださったオンエアイングリッシュの先生方にも御礼申し上げます。ステキなイラストは武蔵野美術大学に在学する濱野 紬 さんによるものです。この場を借りて御礼申し上げます。
最後に、本書の出版のための費用を助成してくださった新潟県ろうきん福祉財団様に深く感謝いたします。

ねん がつ にいがた
2020年10月 りてらこや新潟

だいひょう ささき かおり
代表 佐々木 香織

もくじ
目次

はじめに	2
謝辞	4
第1章 外国につながる子どもとその家族の全体像	6
第2章 Aさん(女性) 中国 ～睡眠障害の克服に向けて奮闘中	21
第3章 Bさん(男性) カナダ ～溶接技術者をめざしてカナダで奮闘中	32
第4章 Cさん、Dさん(姉妹) ネパール ～進学も視野に家族経営のカレー店で奮闘中	42
第5章 Eさん(男性) 中国 ～トンボ博士になるべく北海道の大学で奮闘中	56
第6章 Fさん(女性) 中国 ～大手商社で総合職として奮闘中	68
第7章 Gさん(男性) フィリピン ～いじめを乗り越えコンビニで奮闘中	86
第8章 Hさん(女性) 中国 ～ネイルの先生をめざして奮闘中	103
おわりに	117

本文より一部抜粋

Q: 日本に来ることが決まったのは中学生の時ですね。日本に来る前は、どう思いましたか。

A: 日本へ行きたいと思っていました。日本の高校も行ってみたいと思っ
ていましたが、おばあちゃんのとこに残って、高校へ行こうかなという迷いもありました。すごく迷った。

Q: で、そんな葛藤の中で、半年くらい日本語と受験の勉強をして、高校の入学試験を受けたんですね。

Q: 誰からの、どんな助けが一番助かったと思いますか。来たばかりの時
は？

B: 漢字ドリルをさせられたこと。それがどんに嫌だったか！(笑)

Q: 来て1年くらいたってからは？

B: 日本語で話し、日本語で考えなければならぬ環境へ移ったこと。僕の高校の寮みたいな。

Q: ああ、じゃ、高校入学の試験は、どんな準備をしましたか。

M: じゃ、高校の時ラグビー部やめたのも、中学校でバスケやめたのと同じ理由だったの？

G: いや、あん時は、俺、やばいことやって警察沙汰になったでしよ。

Q: え？何やったの？